

第13回「大学体育スポーツ研究フォーラム」開催要項(第三報)

【期日】 2025年 2月28日(金) 10:00～17:50

【会場】 オンライン開催(Zoomでの開催)

【プログラム】

| | |
|-------------|--|
| 10:00～10:10 | 開会式 |
| 10:10～10:45 | 大学体育優秀論文賞受賞講演 鈴木 久雄 先生(岡山大学) |
| 10:45～12:30 | 関東支部主催企画 「近未来的な体育教育の実践を考える(小中高と大学での実践事例)」 話題提供者 鈴木 直樹 先生(東京学芸大学) 村瀬 浩二 先生(和歌山大学) |
| 13:30～17:41 | 一般発表13演題(研究報告7演題・事例報告6演題) |
| 17:41～17:50 | 閉会式 |

【各種締め切り】

| | |
|--|---|
| 参加・発表受付開始 | 2024年12月1日(日)～ |
| 申込先URL | https://forms.gle/opaY3YoitEKwrwn97 |
| 発表申し込み | 2025年1月31日(金)まで |
| 参加費納入期限(筆頭発表者) | 2025年2月7日(金)まで |
| 発表抄録提出 | 2025年2月14日(金)まで |
| 参加申し込み | 2024年2月25日(火)まで |
| ※発表しない「非会員」の参加費納入につきましては、2月26日(水)までといたします。 | |

【参加費】

| | |
|----------------------|------------------------|
| 発表あり(筆頭発表者のみ) | |
| 機関会員・個人会員・大学院生 | 1千円 (機関会員かつ個人会員は参加費無料) |
| 非会員 | 3千円 |
| 発表なし | |
| 機関会員・個人会員・大学院生 | 無料 |
| 非会員 | 3千円 |

2020.2開催の第8回フォーラムより、一般発表者のうち参加費納入義務は筆頭発表者のみとなりました。よって、フォーラムに参加されない第二発表者以降の方の参加費納入は不要です。

【振込先】

常陽銀行0130 研究学園都市支店104 普3976640 公益社団法人全国大学体育連合研究部

【参加方法】

発表・参加申し込みをされた方にZoomのURLおよびプログラム・抄録集を送信いたします(2月26日(水)配信予定)。

【発表について】

- ・ 発表はZoomとプレゼンテーションソフト(PowerPoint等)を使用した口頭発表(15分)と質疑応答(5分)で構成されます。発表時間は演題数によって短縮される場合があります。
- ・ 発表において使用する言語は日本語に限定させていただきます。
- ・ 優れた内容の発表は当該年度に45歳になる方までを対象として大学体育スポーツ研究フォーラム『優秀発表賞』として表彰いたします。

【発表抄録の提出について】

2023.3開催の第11回フォーラムより、発表抄録は大学体育スポーツ学研究の「フォーラム報告」に掲載される様式(700文字以内)を兼ねています。様式ファイルを使用して期限厳守での提出をお願いいたします。

【第13回大学体育スポーツ研究フォーラム実行委員】

- 委員長:江口 潤(産業能率大学)
- 委員:伊藤 信之(横浜国立大学)
- 委員:中島 弘毅(松本大学)
- 委員:竹市 勝(国土舘大学)
- 委員:山田 盛朗(東京都市大学)

【大学体育スポーツ研究フォーラム運営委員】

- 委員長:田原 亮二(西南学院大学)
- 副委員長:中山 正剛(スポーツ庁)
- 幹事:木内 敦詞(筑波大学)
- 委員:藤野 和樹(千葉商科大学)
- 委員:梶田 和宏(京都先端科学大学)

【発表抄録提出・お問い合わせ先】

13th.forum.2025@gmail.com (担当:田原・中山)

以上

一般発表演題一覧

【日程】2月28日（水）13：30～17：41

【内容】13 演題（研究報告 7 演題，事例報告 6 演題）

【時間】発表 12 分，質疑応答 5 分，計 17 分間

※以下は発表順ではありません。

<研究報告> 7 演題

| | |
|-------|---|
| 研究報告 | 一般大学生とアスリート大学生における月経随伴症状の相違 |
| ○渡辺久美 | 桜美林大学 |
| 研究報告 | ブレンド型授業を用いた大学体育の実践： クラシックバレエを対象に |
| ○朴京眞 | 聖心女子大学 |
| 研究報告 | 初年次体育へのアドベンチャー教育の導入と大学適応 |
| ○山内宏志 | 国際基督教大学 |
| 研究報告 | 大学体育実技における非認知的能力を含む学びの順序 |
| ○難波秀行 | 大阪大学 |
| 研究報告 | 社会的投資収益率(SROI)を用いた観戦型スポーツイベントの社会的価値評価： 大学が主催するホームゲームイベントを事例として |
| ○松尾博一 | 筑波大学 |
| 研究報告 | 大学新入生のコロナ禍前後の活動実態比較 |
| ○藤田恵理 | 帝京大学 |
| 研究報告 | 大学体育は学生のストレスリカバリーにどのように貢献するか |
| ○阪田俊輔 | 横浜商科大学 |

<事例報告> 6 演題

| | |
|--------|--|
| 事例報告 | 同ステップの質感の違いによる表現方法獲得のためのヒント |
| ○川上美里 | 十文字学園女子大学 |
| 事例報告 | 体験の「意味」を深めることをめざした教養科目「生涯スポーツ演習」(フットサル)の授業: 受講生による学びの振り返りを材料として |
| ○岸本栄嗣 | 京都芸術大学 |
| 事例報告 | Well-beingの観点から大学体育の在り様を考える |
| ○吉原さちえ | 東海大学 |
| 事例報告 | スポーツをくみる)ことの協働的生成経験の意義と可能性: 視覚障害者と晴眼者学生によるバスケットボール観戦の事例 |
| ○植田俊 | 東海大学 |
| 事例報告 | 大学体育ワークブックに関する新展開 |
| ○西脇雅人 | 大阪工業大学 |
| 事例報告 | 体育授業の種目選択希望が不本意な学生7割以上に対するダンス授業展開例: やる気の変化の可能性とその要因 |
| ○飯田路佳 | 十文字学園女子大学 |